編　集　後　記

私は 2025 年度まで 6 年間，日本集中治療医学会雑誌の編集に携わらせていただきました。幸運にも学術雑誌の編集という貴重な任務を経験させていただき，関係者の方々にはいただいた御指導に対する感謝をこの場を借りて申しあげたいと思います。

さて，私が携わったのは日本語の雑誌でした。一般的には日本語よりも英語の発信が重要視される風潮があり，医学分野も例外ではありません。しかしながら，言語はあくまでも考えを伝達するための手段であり，その本質的な重要性はその内容にあることは言うまでもありません。

翻訳については，近年，artificial intelligence（AI）の進化などによる翻訳精度の向上が著しく，将来的にはニュアンスや感情を含めた「完璧な」翻訳が実現する可能性が高いと考えられます。もちろん機械を通してよりも，生の言葉でコミュニケーションを図ることが重要という意見もあるでしょう。しかしながら，母国語以外を完璧に習得するためには，幼少期にネイティブ言語の環境にいる経験が重要とされ，そのような経験抜きで独力で高いレベルに達するためにはかなりの努力と時間を要します。しかし，遠くない将来，機械や AI による「完璧な」翻訳が実現すれば，言語の壁を気にせず発信できることはもちろん，貴重な労力や時間を臨床スキルや研究内容そのものの向上により使えるようになると考えます。

とはいえ，母国語，特に日本語の価値が低下すると言いたいわけではありません。完璧に翻訳されるからこそ，むしろ基礎となる母国語での表現がこれまで以上に重要になるのではないでしょうか。まず母国語での的確な言語化があってこそ，他言語への正確な翻訳と考えの伝達が可能になると考えます。また，これまで重視されてきたグローバリズムの流れに対し，近年は自国や自国文化を再評価する考え方も広まってきています。日本語も重要な日本文化の一つであり，まず母国語で表現することの重要性が高まってくるのではないでしょうか。そういう意味で，日本語の雑誌である本誌の価値が今後はより大きくなってくるのではないかと考えております。

2026 年 6 月

文・鈴木　博人